

令和1年度 福祉サービス第三者評価 利用者本人調査結果

小さな足あと保育園

調査日程	令和1年9月10日・11日
保育観察	保育園を調査者2名で訪問し、全クラスの視察、生活環境の保育観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、園外活動での散歩に同行し、食事場面に同席して保育士のかかわり方、園児の様子の観察を行いました。子どもの様子は散歩、食事、午睡時等を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

■子どもの生活の様子

【0歳】

0歳児の定員は5名、1歳以上児は各14名定員であり、今年は追加枠の要請を受け、0歳児は6名となっています。保育室は3階建ての園舎2階を0歳～2歳児が使用し、階段を上がると廊下に沿って大小の保育室が設けられています。小さい保育室の天井は月の形になっており、「月」の窪みには間接照明が施され、午睡時など子どもが見上げる目に幻想的な夢を与えます。0歳、1歳児は大きい保育室を家具等で2つに区分して生活しており、自由に行き来ができるようになっていますが0歳児に危険が無いよう保育士はクラス別に子どもたちの動きを見守っています。調査1日目はお昼の様子を見学しました。テーブルに付いている子どもが5名、テーブル付きの椅子に座っている子どもが1名、離乳食対応は2名の子どもでした。離乳食は3つに分かれたプレートにご飯、おかず、汁物が盛り付けられ、テーブル付きの椅子に座っている子どもは保育士から食べさせてもらい、おいしそうに満足した表情で食べています。他の4名は月齢が少し高く、普通食を食し、まだ食べている子どもや、食べ終えてテーブルにうつ伏せになって寝ている子ども、遊んでいる子ども、ミルクを飲んでいる子どもが居る等の様子が見られましたが、栄養を補い、栄養管理が行われている食事が確認できました。調査2日目には午睡明けの様子を観察し、保育室をのぞいてみると0歳児はみんな元気よく目覚め、心地良い環境の中で天使の笑顔が輝いていました。

【1歳児】

1歳児は0歳児と同じ時間帯に昼食を開始しましたが、2階フロアでは最年長であり、11名（3名お休み）は食事をしっかり済ませ、午睡のエリアで保育士にお着替え、おむつ交換をしてもらい、トイレに誘導してもらっている子どももいます。現在は少し早いトイレトレーニングを行いつつ、便座に座ることを大切にしてトイレに親しんでいます。1歳児クラスの中には2歳になっている月齢の高い子どももあり、便座に座って成功したら褒めてあげることで、おむつからパンツへの移行が早くなることもあり、保育士は繰り返し対応しています。2階には2歳児専用のトイレがあり、2歳児が便座に座っているのを見て1歳児が真似してみる等、相互に良い影響を及ぼしています。また、0歳、1歳児のトイレには沐浴装置、温水シャワー他、おむつ替えのベッドが2つ設置されており、プライバシー保護にも配慮が成され、適切な環境作りが整備されています。調査2日目は午睡明けの様子を観察しました。1歳児では0歳児と比べ、3～4名まだ寝込んでいる子どもが見受けられ、保育士が優しく起こすとまだ布団を恋しく目をつぶっている子どもや、目をこすりながら布団の上に座っている子ども、すぐに立つ子ども等、寝起きの様々な子どもの姿が見られました。子ども一人ひとりの夢の中からの目覚めの様子、午睡後の保育士がトイレに誘導する対応等を観察することができました。

【2歳児】

定員14名の2歳児クラスでは、通常の保育園であれば2歳・3歳児で共用するトイレ設備のところ、小さな足あと保育園では構造も加味し、2歳児専用のトイレが設けられています。2歳児のトイレには男子用の便器や個室トイレに各扉が設けられおり、プライバシーが確保されています。トイレの床はスリッパ（常備）を使用せずとも裸足で入れるよう常に清潔にし、床でおむつ交換もできることを目指して清潔に使用されています。調査1日目は、乳児の食事の様子～午睡の観察後に2歳児のクラスに訪問しました。2歳児は食事を終え、歯磨き（歯ブラシの習慣化）をして着替えをし、午睡前に保育士に絵本を読んでもらっています。じっと聞き入る子どもや、あくびをしながらも座って聞いている子ども等、豊かな午睡へと誘います。調査日2日目は午睡明けの様子を観察しました。1歳児同様に目覚めの姿はそれぞれで、布団から中々出られない子どもや寝込んでいる子どもなど様々ですが、保育士は子ども一人ひとりに対応し、トイレ、お着替え、歯磨き誘導等、目配り気配りをしながら子どもの様子を見て的確に対応していました。

【3歳～5歳児】

<散歩>

調査1日目の午前中、異年齢でのお散歩に同行しました。前日が関東地方直撃の台風15号が上陸したこともあり、外は風が強く危険を回避するため、子どもたちは1日中保育室での遊びだったらしく、今日は外に出かけられるのがうれしいようです。今日のお散歩の目的は、9月16日の敬老の日に間に合うように自分のおじいちゃん・おばあちゃんへの手紙をポストへ投函に行きます。投函後は公園で遊ぶ計画です。おじいちゃん・おばあちゃんへの手紙は、子どもの写真を貼ったハガキにおじいちゃん、おばあちゃんに手紙（コメント）を書き、子ども自身で切手を貼って（住所記載は保育士）投函します。届いたハガキの背景にこのような子どもの情景があることを知るときと祖父母は感動されることでしょう。公園までの道のり（10分程度）の途中にポストがあり、1人ずつ投函します。背伸びをしてポストに投函する子どもや、保育士が抱き上げて投函する等、投函する子どもの姿を写真に撮り、後ほど保護者へもお知らせされるのでしょうか。投函を終えて公園に着きましたが残暑の厳しさが喉の渇きを早め、先ず、木陰で休んで水を飲みます。公園では1名の保育士が危険個所を確認して廻り、台風で大きな木の枝が折れて危険なことを子どもたちに伝え、注意を促します。また、気温も35℃以上で遊具が熱くなっており、やけど等の事故を察知して広場で走る遊びにし、ドロケイを始めました。警察官になる人を保育士とじゃんけんして決め、警察官が人気でたくさん手が上がります。やっと警察官が決まり「よ～い・どん！」の合図で一斉に走り始めます。実習生のお兄さんも加わって子どもたちはすごく楽しそうです。子どもたちはエネルギーを発散するかのごとく汗をかいて走り回り、子どもたちの汗と笑顔が太陽の日差しと共に輝いていました。少し早くに調査者は保育園に戻り、途中、見慣れた小さな足あと保育園の制服を着たもう1つの異年齢クラスの子もたちとすれ違いました。少し立ち止まって見ていると、子どもたちはポストの前で止まり、おじいちゃん・おばあちゃんへの手紙を投函していました。こちらのクラスは投函がお散歩の帰りだったようで、小さな手でポストにハガキを投函する姿が微笑ましい光景として行き交う人の表情も和んでいました。

<食事>

園舎3階は3歳～5歳児が使用し、異年齢保育を実施しています。各年齢7名ずつ・2クラス（「みるく」グループと「ここあ」グループ）に分けて日常活動を行っています。3歳～5歳児のクラスでは、大きい保育室と小さい保育室を使い分け、異年齢2クラスで使用したり、他児の午睡時に5歳児が使用する等、色々な工夫をして有効に活用しています。小さな保育室には星の形が天井に作られ、2階は月、3階には星と、子どもの想像をかき立てる夢のある工夫が施されています。調査1日目は「みるく」グループと「ここあ」グループのそれぞれの食事に調査者1名ずつ同席して一緒に食事をいただきました。食事では、保育室の

一端に食事をサーブするテーブルを設置し、ごはん・主菜・副菜・汁物が各テーブルに並びます。配膳後は、給食当番が前に出て「今日のメニューはご飯、鮭の夕焼け焼、おからのサラダ、お吸い物です」とメモを見ながらスラスラと読み上げます。メニュー発表後は、盛られた食事を持った子どもがサーブするテーブルの所に集まり、量の多い子ども（苦手な食材のある子ども含む）が盛り付けの量を減らしてもらったためでした。保育士が「このくらい？」と子どもに聞きながら食べられる量を提供し直します。好き嫌いのある子どもについては「このぐらいは食べてみる？」と言いながら少しでも食べられるよう促しています。主菜は、鮭の夕焼け焼（トマトケチャップを絡めて焼いたもの）、副菜はおからのサラダでした。鮭の夕焼け焼も食べやすく子ども好みに工夫されたおいしい食事でしたが、おからのサラダはこの園自慢のメニューであり、大変おいしいと評判の献立で、子どもからの評判も良く、調査者もおしくいただきました。「今日のお終りの時間は？」と一人の子どもが聞くと、「3までね」（12：15の意）と保育士が伝え、楽しく食事が始まります。同席したテーブルは男の子が多いテーブルでしたが、話しをしながら楽しく食事を行い、早く食べ終わった子どもはお代わりを取りに行く等、食欲旺盛です。食事が遅い子には、保育士が「自分で“集まれ”をする？先生がする？」と聞き、お皿に残ったおかずを自分で集めてちゃんと食べ終えることができました。みんなの食事が終わると、給食当番が前に出て、一緒に「ごちそうさま」をして感謝を伝えます。小さな足あと保育園は、様々な場面で必ず終わりの挨拶を行う習慣ができており、とても良いことだと感じました。

<午睡>

調査2日目、3歳～5歳児の午睡後を見に行きました。午睡は合同で大きな保育室で一緒に就寝し、午睡後は自分たちの布団の片付けを行います。さすがに3歳～5歳児はしっかりしていて、大きい保育室から小さい保育室の布団の収納庫まで布団運びます。3歳児も4歳児、5歳児のお兄さん、お姉さんに負けないくらい力持ちです。片づけが全員終わった後は廊下に並び、保育士に本を読んでもらいます。寝起きから緩やかに活動へと入れるよう、心身共に落ち着けるよう保育士の配慮が見られました。

事業者コメント

施設名 社会福祉法人美希福祉会 小さな足あと保育園
施設長名 原 弘毅

《第三者評価を受審した感想》

開園から7年が経過し、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様や関係各所に協力を頂きながら保育環境の向上を目指しながら運営しています。第三者評価は行政の指導監査と違う角度からの評価であり、園や法人の保育理念・方針と実施状況の確認や職員との面談など、文言と行動の一致不一致が確認できる機会となりました。

担当職員がチームを組み、自らの保育・職務について細かく自己評価していく過程は、改めて自らの仕事や組織としての働き方を見つめなおす機会となり、多くの気づきが発見できました。また、自らは特に意識していなかったことを評価頂いたことは職員の自信になり、今後のやりがいにつながります。園が、職員がエビデンスに裏付けられた保育に自信をもって取り組むことが環境向上につながります。

子どもたちにとって最善の保育園になるために、保護者の皆様や関係各所と連携しながら、常に保育環境の改善を行っていきます。

《評価後取り組んだ事として》

職員間で第三者評価を振り返り、改善すべき事項に優先順位と期限を定めながら進めている最中です。

1. 個人の気づきは全体で共有し、組織としての同じ方向に進むことを大切にしていきます。
2. 保育の重要性が高まるとともに幅広い知識と専門性も必要ですので、内外部の研修には積極的に参加し、情報収集とスキルアップに努めて行きます。
3. また、法人内でも情報共有を行い、環境の違う園からも様々な意見を取り入れながらより良い保育環境づくりに邁進してまいります。